

登録コード:MH437300 開講年度:2026		授業科目区分	専攻専門科目	必修
科目名	作業療法治療学実習【20M以降】 Clinical therapeutics practice in Occupational Therapy			
担当教員	岩波 潤 他 上村 智子・務臺 均・佐賀里 昭・田中 佐千恵・佐藤 正彬			
対象専攻/学年、講義期間、曜日・時限	作業療法学専攻/ 3 年 前期 月曜・3 時限 月曜・4 時限 月曜・5 時限			
単位数、講義室	1 単位	保健学科OT実習室	遠隔授業科目	
信大コンピテンシー	該当			
授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素		授業の達成目標	
	MH20カリ・保健			
	保健・医療の専門職者として必要な感性を磨き、基本的知識・技術を獲得して、さまざまな状況で活用できる。		各領域における作業療法の進め方を理解し、作業療法実践（おもに治療手技など）に必要な臨床技能を身に着ける	
	MH25カリ・保健・作業、MH23カリ・保健・作業			
	基礎的・専門的な知識と技能 保健・医療専門職者に必要な幅広い教養と基礎的・専門的な知識・技能を修得し、さまざまな状況で活用できる。		作業療法士に必要な幅広い教養と基礎的・専門的な知識・技術（主に治療に関連するもの）を習得し、臨床現場において活用できる。	
	科学的探求力 変化し続ける社会で派生する多様な課題に対して、地域・国際的な視点から、科学的・倫理的・道徳的・創造的に課題に対応していく探究心と、課題克服や目標達成に向けて生涯をかけて取り組む力が身についている。		社会で派生する多様な課題に対して、多領域に関わる作業療法士の視点から、科学的・倫理的・道徳的・創造的に課題に対応していく探究心と、それらを支援するための制度や知識の獲得に向けて生涯をかけて取り組む力が身についている。	
	問題解決力 保健・医療・福祉の場で生じる多様な情報を、科学的・多角的に収集・評価・分析し、最新情報と科学的根拠に基づいて判断を行うとともに関係者に伝えることができる。		身体障害・発達障害・精神障害などの様々な領域の臨床現場で生じる多様な情報を、科学的・多角的に収集・評価・分析し、最新情報と科学的根拠に基づいて判断を行うとともに臨床実習指導者等の関係者に伝えることができる。	
	対人関係形成・協働力 保健・医療・福祉の現場における対象者やその家族、チーム関係者とコミュニケーションをとりながら適切な関係を形成し、保健・医療専門職者として協働的に役割を担うことができる。		身体障害・発達障害・精神障害などの様々な領域の臨床現場における対象者やその家族、実習指導者、理学療法士、言語聴覚士、看護師などのチーム関係者とコミュニケーションをとりながら適切な関係を形成し、作業療法士を目指す学生として可能な範囲で協働的に役割を担うことができる。	
	プロフェッショナリズム 保健・医療専門職者として生命を尊ぶ倫理観と責務・行動規範を身に付け、人々の健康と社会の発展に向けて省察的・自律的に行動することができる。		作業療法士として生命を尊ぶ倫理観と責務・行動規範を身に付け、人々の健康と社会の発展に向けて省察的・自律的に行動することができる。	
授業で学べる「テーマ」	健康長寿			
全学横断特別教育プログラム				
授業概要	本科目では、臨床場面（大学病院および関係病院）にて、身体障害・精神障害・発達障害領域の教員の指導下で、作業療法の実践を体験する．2年後期の作業療法評価学実習での経験を踏まえ、作業療法に必要な臨床技能（評価・治療手技など）を実践できるように学習する。また、作業療法実践の結果を症例報告としてまとめ、他者に伝える方法を学ぶ。 本科目は、2年次に学んだ「身体障害作業療法学実習」「精神障害作業療法学実習」「発達障害作業療法学実習」「作業療法評価学実習」の知識を前提とし学んでいくことになる。そして本科目の内容は、4年次の総合臨床実習における重要な基礎知識となる。 本授業は、担当教員の医療機関等における作業療法士としての実務経験を活かして実習を行います。			
授業計画	大学病院のリハビリテーション部・学外病院にて実習を行う．日程の詳細および課題については、別に作業療法治療学実習マニュアルを配布し、事前に説明する． 各グループの実習回数は以下の通り（日程詳細と課題に関するオリエンテーションを行う）． 大学病院リハビリテーション部・学外病院での実習 身体障害領域（教員による指導）：病院実習3回＋ケース検討 身体障害領域（附属病院スタッフによる指導）：病院実習4回（ケース検討はなし） 精神障害領域または発達障害領域：病院実習3回＋ケース検討（ ） 2年後期の作業療法評価学実習にて精神障害領域で実習した学生は本科目では発達障害領域を、2年後期の作業療法評価学実習にて発達障害領域で実習した学生は本科目では精神障害領域で実習することになります。 実習の最終日に担当教員の指導のもと、授業アンケートを実施します。			
授業の進め方	2 - 3 名のグループに分かれて実習を行う。各領域の指導教員の指導下で臨床場면을体験し、実習終了後にデイリーレポートを作成し、それを元にフィードバックを行う。フィードバックなどで時間延長することもあるので、承知しておくこと。授業の進め方の詳細は各領域により異なるので、マニュアル（別途配布）や担当教員に確認すること。			
テキスト、教材、参考書	作業療法治療学実習マニュアルをオリエンテーション時に配布するので、熟読すること。			

成績評価の方法	本科目は、実習を通じた学習経験を重視しているため、原則として全ての実習への参加を成績評価の前提条件とする。 実習態度（職業人としてのレディネス）：40点、 担当ケースレポートおよびケース検討会での口頭による説明：30点、 自己学習ファイル：30点とし、総合的に評価する。各領域ごとに採点を行う。 本科目の最終成績は総計の60%以上を合格とします。 本科目のディプロマポリシーへの寄与度は、総合評価の2/3を 基礎的・専門的な知識と技能 に、総合評価の1/3を 科学的探求力 とする。
成績評価の基準	下記の基準に基づいて、実習態度、担当ケースレポートおよびケース検討会での口頭による説明、自己学習ファイルに関して評価を行います。 秀：課題に対する具体的な対応を十分円滑に遂行することができる。（90点以上） 優：課題に対する具体的な対応を概ね円滑に遂行することができる。（80点以上） 良：課題に対する具体的な対応を基本的なレベルで遂行することができる。（70点以上） 可：課題に対する具体的な対応を最低限のレベルで遂行することができる。（60点以上）
事前事後学習の内容	< 事前学習 > 実習初回の数日前に各領域の指導教員へ連絡し、実習の予定や担当する症例の情報を聴取する。聴取した情報に応じて、各自で必要事項を事前学習すること。また、グループ内で評価手技の模擬練習を十分に行ってから実習に臨むこと。 < 事後学習 > 各日の実習終了後に、症例に関するフィードバック、学生個人の態度・思考プロセスに関してデイリーレポートによりフィードバックを行う。それらに基づいて、次回の実習目標を定め、自己学習内容の確認を行う。 本授業の単位修得には45時間の学習が必要です。 授業時間36時間（3時間×12回）＋自己学習時間9時間（45分×12回）＝45時間 以上の自己学習時間を考慮して、事前・事後学習に意欲的に取り組んでください。
学生へのメッセージ並びに質問、相談への対応	ユニホーム（ケーシー）着用のこと。 臨床実習では、学生自身の学習意欲・自主性・積極性により、学習成果に差が出やすい。体調管理に留意し、実習に集中できる環境を整えて臨むこと。 実習にはケースの協力が不可欠である。当然、各ケースの予定が優先されるため、実習の日程や内容の変更も起こりうる。 2～3日前までには、担当教員に次回の実習について必ず確認を行うこと。 質問への対応：岩波潤 iwanami@shinshu-u.ac.jp オフィスアワー：随時（要事前連絡） 保健学科南校舎2階 岩波潤研究室